

(伊野)

心 碩

可行 認 會 風 學 院 吟 詩 日 本 法 人 會 社
 川 奈 神 碩 心 會 風 會 認 行

4年1月現在會員數 163名 242名 48名 (合計) (453)名	4年1月号(234号) 根 岸 岳 萃 中 編 集 者 岳
---	-------------------------------------

年頭のごあいさつ

会長 根岸岳萃

明けましてお目出度うございます。碩心会の皆さんが、御家族共々良い新春を迎えられましたこと、衷心よりお慶び申し上げます。今年こそ今年こそはの年があけ、碩心会は皆さんの活躍により発展しつゝ、新年を迎えました。それを創立五十五周年吟道大会を控えた今年こそ、大躍進の年にしたいと気を引き締めております。

世界は正に経済大国日本の苛めにかゝっているようですし、日本も亦、金満に浮かれているようですが、この様な時にこそ、精神文化の向上が必要ではないでしょうか。我々は吟道を通して世直しの心意で頑張りましょう。お互いに健康に充分注意して吟道に精進して行きましょう。

碩心会の「和」をモットーに、大いに活躍されますことを願ひしまして、年頭の御挨拶と致します。



あけまして

おめでとうございます

- | | | |
|-------|------|-------|
| 根岸岳萃 | 加藤岳相 | 三井岳瓏 |
| 沼田岳雷 | 小峰岳海 | 井沢岳潮 |
| 加藤岳洵 | 中村岳郵 | 竹石岳泓 |
| 千葉岳関 | 中村岳愛 | 森田曉岳 |
| 岩崎恵岳 | 鈴木孝岳 | 守谷崇岳 |
| 山口夕岳 | 松野宝岳 | 杉山雪岳 |
| 秋元梁岳 | 鈴木萃岳 | 佐藤湧岳 |
| 矢嶋悦岳 | 黒崎李岳 | 村田滯岳 |
| 石渡桂岳 | 沼田義岳 | 清水耀岳 |
| 伊藤峰岳 | 白井寿岳 | 白井麗岳 |
| 上村象岳 | 渡辺誠岳 | 一柳道岳 |
| 佐久間爽岳 | 木村松岳 | 寺脇宇岳 |
| 立沢御岳 | 小形雄風 | 宇都宮徳風 |
| 千葉美風 | 松井正風 | 西山幸風 |

(指導者一同・名簿順)

七福神とは……

- 恵比寿…(商売繁盛) 大黒天…(財福) 毘沙門天…(力) 弁財天…(知識・学芸) 福祿壽尊…(長寿安泰) 寿老人…(不老長寿) 布袋尊…(田満)

平成四年度 行事予定

(総本部関係)

- 2・9(日) 準師範講習
 - 3・8(日) 師範講習
 - 3・22(日) 関東地区選抜予選会…パンセホール
 - 3・28(土) 木村岳風先生40年祭…
 - 3・29(日) 第101回全国吟道大会…ペイN Kホール
 - 7・1(水) 岳風忌…諏訪地藏寺
 - 7・12(日) 第18回選抜者吟道大会…九段会館
 - 7・25(土) 夏期吟道講座…九段会館ホール
 - 7・26(日) "…千代田区公会堂
 - 10・18(日) 第102回全国吟道大会…青森文化会館
- (神奈川県本部関係)
- 1・26(日) 初吟・初理事会…横須賀労働センター
 - 2・9(日) 高段者審査会(皆伝)…平塚農業会館
 - 2・11(祝) 選抜神奈川予選会…
 - 2・16(日) 高段者審査会(九段以上)…
 - 3・22(日) 選抜関東予選会…神田パンセホール
 - 3・29(日) 全国吟道大会…ペイN Kホール
 - 5・10(日) 定時総会(改選)…横須賀第二地区
 - 5・17(日) 横須賀第一地区吟道大会
 - 6・14(日) " 第二地区吟道大会
 - 6・21(日) 青少年吟道大会

- 8・9(日) 県本部指導者吟法講座
 - 9・6(日) 京浜地区吟道大会
 - 9・13(日) 県本部吟道大会…横一地区
 - 9・27(日) 湘南地区吟道大会
 - 10・17(土) 吟行会
 - 10・18(日) 第102回全国吟道大会…青森文化会館
 - 10・19(月) 吟行会
 - 10・20(火) " "
 - 11・15(日) 高段者吟道講座(皆伝)
 - 11・22(日) " (九段以上)
 - 11・28(土) 納吟・理事会…湘南地区
- (頌心会関係)
- 1・12(日) 初吟会…逗子京急ビーチセンター
 - 3・8(日) 春期審査会…逗子図書館ホール
 - 6・7(日) 55周年吟道大会…葉山福祉文化会館

◎高齢者の審査方法一部変更

来る2月9日・16日の高段者の審査は、平成四年一月一日付で次の通りになりました。
 ◇年齢75才になられた受審者は書取を免除。
 ◇年齢80才になられた受審者は教本をみて、吟詠する事を可とする。

(県本部審査委員会)

総伝認許

平成四年一月一日付を以て、総本部より左記六名に総伝が認許されました。雅号は次の通りです。

- 岳潮(ちよう) 井沢朝吉
- 岳洵(じゆん) 加藤圭一
- 岳郵(ゆう) 中村幸太郎
- 岳泓(おう) 竹石憲吉
- 岳関(かん) 千葉信一
- 岳愛(あい) 中村あい

新年の歌より

昭和天皇御製

西ひがし睦み交わして栄ゆるらん
 世をこそ祈れ年の初めに

俳句

- 元日や一系の天子不二の山 鳴雪
- 元日や家に譲りの太刀佩かん 去来
- 元日や晴れて雀のものがたり 嵐雪

元旦觚を試む 伊達政宗

事物春来我が吟を催す

詩情酒濁共に何ぞ禁せん

屠蘇に沈酔して才拙を忘れ

和して黄鸝新語の音に答えん

(語 釈)

觚 木の四角な札。(紙の無い時代に字を

書く為に用いた)

和 他人の詩の韻にあわせて、詩を作る事。

黄鸝 朝鮮うぐいす・うぐいす。

(訳 詩)

〃年あけて 筆うづく春

燃えあがる酒の濁きと詩情(うたごころ)

屠蘇(とそ)のいきおいへば詩(うた)一つ

お返し申す うぐいすに〃

(伊達政宗)

安土・桃山・江戸初期の武将。奥州をつぎつぎに平定したが秀吉に屈し、のち徳川方について六十二万石を領した。

〃審査書取〃こぼればなし

(その1)

所用で出かけるため、雨の中タクシーを待っていたら、ブーツとクラクションが鳴り、ふとみるとMさんの運転する車が止まった。「先生どこへ行くんですか」と聞かれ「〇〇の方まで行くんですけど」と答えると「私もその方向へ行くからどうぞ」と誘われ、乗せていたゞくことになりました。

助手席に乗り走りながら話題がはずみ、話はいつの間にか詩吟の話になり「先生、上をみて下さい」と言われ、みると棚の上には分厚い紙の束。「私は審査の課題を全部こうして紙に書いて憶えるんです」と。その言葉に對し私も「書くという事は最高によい勉強法で、又ボケ防止などにもいちばんいいんですって、がんばって!」と、その熱心さに感心、又心から嬉しく思いました。

初めて尋ねる先方の家を、十二月のみぞれまじりの冷たい雨の中を何度か車からおりて聞いてくれ大助かりでした。私は心から感謝し、こんなお弟子さんを持つ倅せを、しみじみかみしめました。

(その2)

御夫婦で詩吟をやっていたらられるHさんの、奥さんと話をしていたら近づく高段者審査の話になり「夕べ審査課題の書取の練習をしたの。そして今朝起きたら赤ペンでうちの丹那つたら細かいところまで直してあるので腹立つちゃった。自分も忙しいのに12時すぎまでねむい目をこすりくったのに!」ですって。でもすぐそのあと「でも一生懸命みてくれたんだから有難く思わなくちゃね」ですって御馳走様。夫婦でやっていたらこそよね。

(その3)

ある日用ありでTさんの家に行きました。どうぞくといわれ、あがると「今、次の審査の書取のお稽古をしていたんです」と言われた。あれ!Tさんはいつこの間、審査が終ったばかりなのにも思い「えっ、もう次ぎの段のおけいこ!」と思わず言ってしまった。そしたらTさん「え、そうなんです!」...と。私はびっくりした。そしてその熱心さに心打たれた。兎と亀の話があるが、今からこうしてやっていたらよい点間違いなし。ちなみにこの前のTさんの書取もはっきりとその効果が現れていて立派でした。

練吟

メモ

朗詠誌の平明

○ 読初や机上白文唐詩選 虚子

明治・大正・昭和三代にわたり、俳壇の頂点にあった虚子の功績は偉大である。この句、まずもってお正月用に。現代はまさに英語の時代であるが、漢詩文の勉強も決して無駄でない。むしろ教養の最高の糧となる。

三碗の雑煮かゆるや長者ぶり 蕪村

蕪村の頃の農村では、白米は貴重な食べもので、麦や干菜をたくさん混ぜたり、かゆにしたりして米を節約した。餅などもめったに食べられるものでなかった。その雑煮を三ばいもおかわりすれば、まこと長者ぶりだったということ。平成の平和と繁栄を感謝したい。

○ 正月一日よめる 源実朝

今朝みれば山も霞て久方の

天の原より春は来にけり

正月向きの、この上なく平明な和歌。

道のはとりにおさなき童の母を尋ね

ていたく泣くを、そのあたりの人に

尋ねしに、父母なん身まかりしと答

へはべりしを聞きてよめる 実朝

いとほしや見るに涙もとゞまらず

親もなき子の母を尋ねる

筆者は、鎌倉右大臣実朝卿ともあるう御方が道端に泣く童子に対し、このような歌を詠んだことにいたく感動した。実朝は一月二十七日八幡宮参拝の帰途暗殺された(時に28歳)。○俳句も和歌も、とくに漢詩の場合は、歌詞の省略が効いているので、単に耳からだけでは詩文の理解はむづかしい。まして、中国の古典詩は、現代の中国人ですら難解とされている。つまり漢詩は、耳で味わうより目で楽しむものであるらしい。福岡県の医師で漢詩作家の松口月城氏は、伝記「木村岳風」追悼文で「昭和十九年秋、木村先生にお目にかかったが、その時先生は、吟詠詩は、聞いてよくわかり、詩句に人の心をうつものがなければ、吟によって人を感激させることはできない。だから、現代にふさわしい吟詠詩の創作が待たれてならないと言われた。正にその通りで、この言葉が以後の私の作詩法の根底をなした」と述べている。難解な詩文でなく、平明な、聞いて容易に理解できるものを選んで朗詠すべきであろう。十年一日の如く、古典一辺倒では大きな発展は望めないと思う。

広報部からのお願い

月報「碩心」もこの一月号で23号となり、あとわずかで24号。創刊以来二十年になるうとしていきます。そこで更めて皆様、ぜひ原稿をお寄せ下さる様お願いします。原稿が集まりませんと、つい／＼広報部で埋めることになり「皆様の広報」に対し申し訳ありません。詩吟に対する建設的な御意見、抱負、詩吟マンネリ化に対する新しい試み、思いでの詩、好きな詩にまつわる話、教場風景、教場行事、その他詩吟に関する漸新、ユニークな記事等々、何なりとお寄せ下さいますよう重ねてお願いいたします。

退会

- 33 広瀬翔岳(桜山A)
- 143 鈴木尚風(一色A)
- 144 鈴木芳風(一色A)
- 154 穂苅星風(桜山A)
- 200 西岡祥風(堀内・E)
- 258 上村祥風(堀内・F)
- 583 梶ヶ谷正美(下山口)

正月休みも何となく気が、りだった編集も二日に書き初め、三日に仕上り、思わずヤッターと、はじめてはっとしました。